

幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

交流が深まるポイント ココ見て！

～横浜市竹之丸保育園・横浜市立山元小学校～

夏休みが明け、年長児と1年生の交流が始まりました。きっかけは、近くの公園での出会い。ドングリをあげたり、虫を見せたりと張り切る1年生です。



名前呼び合える間柄に！



子どもたちは考えました。仲良くなるためには、名前を覚え合うことが大切。

オンラインや、1年生が園を訪問する交流を繰り返し、名前呼び合える間柄になると、ますます仲が深まりました。

「してあげる」からの脱却！

鬼ごっこをすると年長児の方が速かったり、日本語に慣れていない1年生に年長児が一生懸命話しかけたり。1年生が何かを「してあげる」関係ではなく、お互いが大切な「友だち」となっていました。

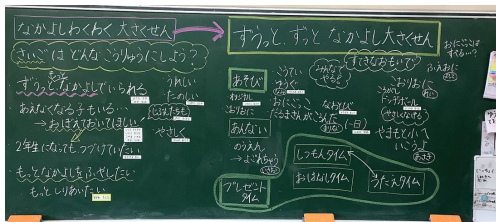
交流は子どもどうしだけではなく

「〇〇せんせい、これなあに？」
「◇◇ちゃんは、これが気になるの？これはね…」

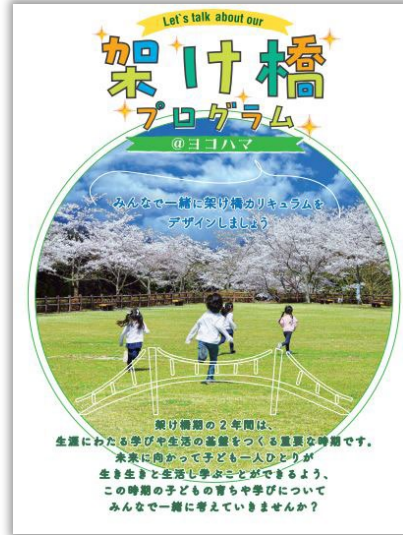


こんな会話をするのは年長児と1年担任。こんなところにも交流の深まりが表れます。

計画は子どもたちの話し合いで

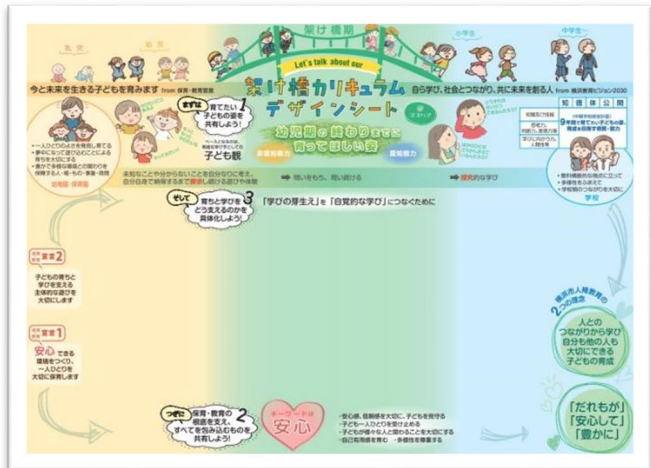


子どもたちが考えた最後の交流会は、「ずうっとずうと、なかよし大きくせん」。「みんな山元小にできればいいのに！」と、入学してくることを心待ちにしています。



架け橋プログラムのリーフレットは、届きましたか？

幼保小連携事業等で様々な交流や連携活動に取り組まれている横浜の園や学校だからこそ、一緒に話し合うことでたくさんの「たしかに！」「同じだね！」「なるほど！」「うちでもやってみよう！」が生まれることでしょう。架け橋期のカリキュラムをデザインするためには、まずはこうして顔を合わせて話し合うことが大切です。そのためのツールとして、リーフレットを作成しました。



研修等の機会にどうぞご活用ください。活用方法についての YouTube 動画も作りました。ご覧になりたい方はこども青少年局幼保小連携担当までご連絡ください。研修についてのご相談も、喜んで受け付けています！

こども青少年局保育・教育支援課

幼保小連携担当

045-671-3731

kd-youhosyo@city.yokohama.jp